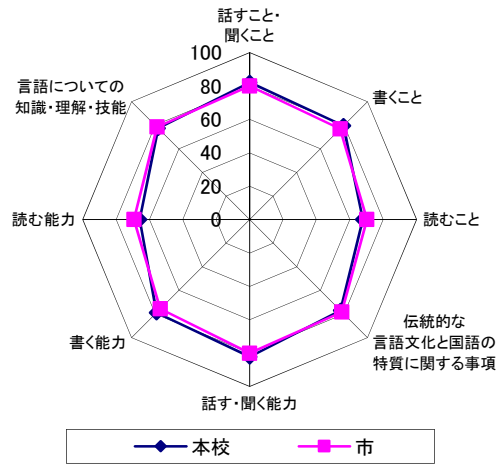


宇都宮市立上河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	82.2	80.1	77.9
	書くこと	79.6	76.8	65.3
	読むこと	67.8	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.0	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	82.2	80.1	77.9
	書く能力	78.8	75.6	64.2
	読む能力	65.9	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	77.5	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

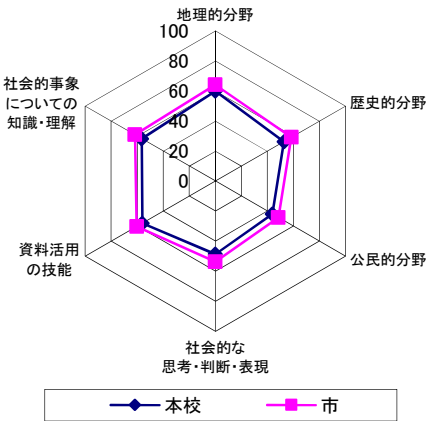
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の正答率80.1%に対して、2.1ポイント上回っている。 ○互いの発言を検討して自分の考えを述べることができる問題において、市の正答率を9.3ポイント上回っている。 ●司会者の工夫を聞き取ることができる問題において、市の正答率を4.1ポイント下回っている。	・実生活に結びつくような言語活動を取り入れることで授業中に学んだことを普段の生活でも意識するとともに、「話すこと・聞くこと」の力の定着を図る。 ・「聞き方テスト」やノート指導を通して、意識して聞いたり、ポイントをメモしたりする習慣を身に付けさせるとともに、実際にスピーチを行うことで実践力を身に付けさせていく。
書くこと	○市の正答率76.8%に対して、2.8ポイント上回っている。 ○作文の問題において、市の正答率を全ての項目で上回っており、正答率も90%以上である。 ●資料を集めて発表原稿を書く問題においては、市の正答率を全ての項目において下回っている。	・授業の中で、記述式問題や作文において、まずは書いてみる指導が表れているので、今後も指導を継続していくとともに、資料収集や文章構成の作業も授業の中で取り入れていきたい。 ・全ての学級においてスタンダードダイアリーを毎日書くことにより、「書く」ことを習慣化させたい。
読むこと	○文章の展開に即して内容をとらえ、それを整理してまとめることができる問題の正答率において、市の平均を7.5ポイント上回っている。 ●市の正答率70.3%に対して、2.5ポイント下回っている。 ●文章の表現をとらえる問題において、市の正答率を6.8ポイント下回っている。	・論説文を読むことに関しては、興味・関心をもたせるような指導を授業の中で進めていく必要がある。また、要旨をとらえさせる指導も続けていく必要がある。 ・文学作品については、登場人物の細かい心情描写をとらえることに苦手意識が見られるので、教科書の文章だけではなく、発展的な資料も読み取るような言語活動を取り入れていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○中学校3年までに学習した漢字の読み取り問題の正答率が4問中3問上回っていて、そのうちの1問の正答率は100%であった。 ●市の正答率75.5%に対して、1.3ポイント下回っている。 ●小学校で学習した漢字の書き取り問題の正答率が、4問中3問下回っていて、そのうちの1問は8.9ポイント下回っている。	・漢字の知識は今までの学習の成果が表れていると考えられる。用言の種類や、敬語などの文法事項に対して苦手意識があるので、授業の中で取り上げていく必要がある。 ・授業における語彙力を増やしていくために、言語活動の工夫や、日常生活における言葉によるコミュニケーションの場を考えていく。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	60.0	64.1	57.5
	歴史的分野	52.7	58.4	52.8
	公民的分野	43.8	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	48.6	53.6	47.5
	資料活用	56.1	60.3	53.3
	社会的事象についての知識・理解	56.6	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

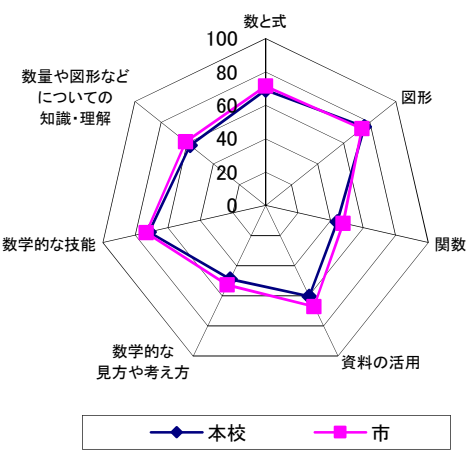
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○主な国々の国名と位置の理解を問う問題では、市の正答率88.7%に対し1.2ポイント上回っている。 ○出生率や死亡率から人口ピラミッドを判断する問題では、市の正答率77%に対し2.7ポイント上回っている。 ●地理的分野全体の正答率が、市の正答率64.1%に対し4.1ポイント下回っている。 ●資料活用の技能や思考力、判断力を問う問題の正答率に課題がある。	・地理的分野では、地理的・空間的理解を基に資料を活用して地域の特色を読み取る力や思考する力、判断する力に課題が残る結果であった。授業において写真資料や統計資料をふんだんに活用して、地域の共通性や特異性を考えさせる学習活動を展開していくことが大切である。 ・世界地図や日本地図を常日頃から見る習慣を付けさせ、ITCを駆使しながら空間的認知力を向上させていきたい。
歴史的分野	○「西暦」と「世紀」の表し方を資料から読みとって答える問題では、市の正答率59.1%に対し2.9ポイント上回っている。 ●歴史的分野全体の正答率が、市の正答率58.4%に対し5.7ポイント下回っている。 ●資料をもとに判断する問題や複数の資料をもとに判断する問題の正答率が、市の正答率に比べ10ポイント程度低い。	・歴史の出来事に対して、「いつ」「どこで」「誰が」等の基本的な理解を高める必要がある。年表や史料等を活用して、丁寧に調べさせる作業を授業に多く取り入れていく必要がある。 ・歴史上のエピソードを取り上げながら授業を展開する等、生徒を引き付け、生徒の興味・関心を高めるよう工夫していく。 ・普段の授業が史実を理解させることのみにならないように工夫し、資料から読みとって判断させたり、史実やその影響を批評させたりする学習活動を多く取り入れるようにする。
公民的分野	○「公共の福祉」についての理解を問う問題では、市の正答率40.6%に対し2.4ポイント上回っている。 ●公民的分野全体の正答率が、市の正答率48.5%に対し4.7ポイント下回っている。 ●日本国憲法の基本原理を問う問題では、市の正答率65.1%に対し12.6ポイント下回っている。 ●憲法が国の最高法規であることを問う問題では、市の正答率55.4%に対し11.7ポイント下回っている。	・日本国憲法の特徴に対する基礎・基本の知識が定着していない結果が見取れる。具体例を示しながら、国民の権利や実生活と結び付けて憲法の意義を考えさせ、理解が深まるように指導の工夫を図る必要がある。 ・資料活用の技能や思考力に課題が残る結果であった。単元のまとめの時に新聞記事等を活用して、「リアルタイムで起こっている社会的事象について主権者としてどう考えるか」を問い、話し合う活動等を積極的に取り入れていきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	69.2	71.5	66.8
	図形	75.7	73.8	70.4
	関数	44.1	47.8	41.6
	資料の活用	60.3	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	48.9	52.8	45.8
	数学的な技能	71.6	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	57.9	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

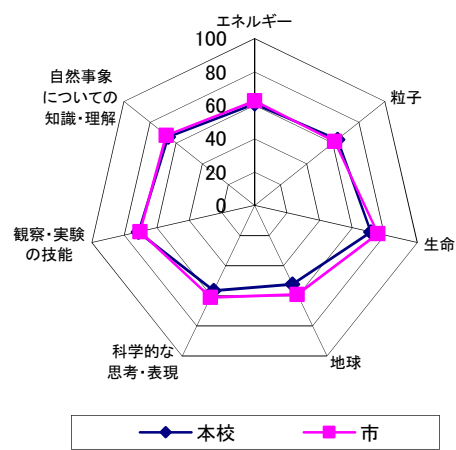
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○乗法公式の展開の問題では市より1.7ポイント上回っている。 ○根号を含む式の乗法の問題では、市より1.8ポイント上回っている。 ●全体的に市平均より2.3ポイント下回っている。特に、自然数を選択する問題では、正答率が市より9.4ポイント下回っている。また、平方根の大小の問題では、12ポイント下回っている。	・知識についての問題の正答率がよくないことから、数学の用語について、確認する必要がある。 ・活用問題については、問題の意味の理解と方程式の立て方についてもう一度理解させる。
図形	○図形の領域全体では市平均を1.9%上回っている。 ○市平均と比べて、証明の必要性和意味の問題では10.9ポイント、n角形の外角の和の問題では9.2ポイントと大きく上回る項目が2つあった。 ●折り目の線が垂直二等分線になることを理解し作図する問題では、市平均よりも10.7ポイント下回っている。	・1、2年生の学習内容の復習に、継続して繰り返し取り組ませる。 ・1年生で学習する作図についてもう一度復習し、内容の定着を図る。
関数	○グラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さを求める問題では市の平均を5.6ポイント上回っている。 ●全体的に市平均より3.7ポイント下回っている。特に、関数の意味についての問題や表と式の関連付け、変域についての問題の正答率が市より5ポイント以上下回っている。	・生徒の中でも苦手意識の高い「関数」の分野において、1、2年生の内容の復習を徹底して行っていく。 ・比例・反比例、一次関数、2乗に比例する関数において、一般式の表し方の指導を重点的に行うとともに、表・式・グラフの関連を生徒に理解させる。 ・グループや任意小集団など、学習形態を工夫しながら発展的な問題にも取り組ませることで、学び合いの機会を作る。
資料の活用	○中央値への理解は、市の正答率をやや下回ってはいるが、概ね良好である。 ●正答率は、市より6.8ポイント低い数値であった。 ●度数分布表から、階級の相対度数を求める問題では、市の正答率を11.1ポイント下回っている。	・基礎・基本の確実な定着を図るため、確率の単元に入る前に、資料の活用における階級値・相対度数・最頻値・中央値などの用語の復習を行う。 ・総度数の異なる資料を提示し、相対度数の意味とともに必要性についても説明させるなど、生徒同士で数学的な表現を用いて説明し合うことで理解を深めさせる。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	61.0	62.7	57.6
	粒子	63.6	61.5	57.7
	生命	71.5	75.8	72.1
	地球	52.2	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	56.6	61.0	54.8
	観察・実験の技能	71.3	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	66.0	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

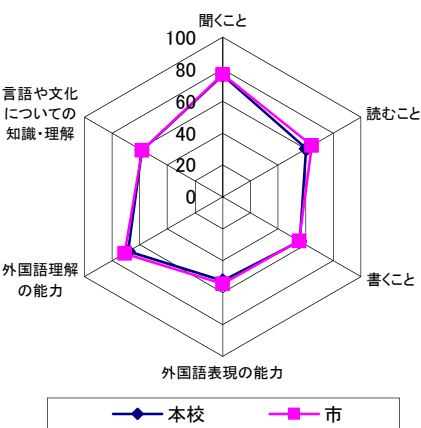
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○電流と電圧の関係を表すグラフでの理解については市よりも4.5ポイント高い数値であった。 ○物体の運動の実験では、理由を指摘する内容については市よりも11.2ポイント高い数値であった。 ●正答率は、市より1.7ポイント低い数値であった。 ●音の性質について市より10.7ポイント低い数値であった。	・教科書の重要語句の確認やワークを繰り返し行うことで、基礎学力の定着を図る。 ・複数の実験結果をもとに関係性を考える内容が不十分なので、話し合い活動を通して、複数の実験結果の関係を活用する授業を展開する。
粒子	○正答率は、市より2.1ポイント高い数値であった。 ○化合の実験結果を考える内容については市よりも9.1ポイント高い数値であった。 ○電流が流れない理由を指摘する内容については市より6ポイント高い数値であった。	・実験結果等から学んだ知識は定着しているので、今後も実験結果を予想させ、記述・発表させる内容を授業で多く取り入れる。 ・密度などの計算結果から、物質を導き出す内容では、繰り返し計算問題に取り組み、さらに理解を深めさせる。
生命	○胚の成長の順序の内容については市よりも1.6ポイント高い数値であった。 ●正答率は、市より4.3ポイント低い数値であった。 ●卵、精子、体細胞の染色体の数についての理解については市よりも15.4ポイントと著しく下回っている。	・教科書の重要語句の確認やワークを繰り返し行うことで、基礎学力の定着を図る。 ・生命の不思議について、疑問をもつことが不十分なので、話し合い活動を通して、結果だけでなく、疑問をもたせ、「なぜ？」を活用する授業を展開する。
地球	○停滞前線をつくる気団についての理解は市よりも3ポイント高い数値であった。 ●正答率は、市より6.8ポイント低い数値であった。 ●地層が堆積した順序や堆積した理由を推測する内容については市よりも著しく下回っている。	・教科書の重要語句の確認やワークを繰り返し行うことで、基礎学力の定着を図る。 ・重要語句だけを答えさせる発問だけでなく、説明させる問いを多くしたり、記述させる内容を多く取り入れる。 ・身の回りの現象について、結果だけでなく、途中経過（過程）を話し合い導き出し、何度も記述させて学習の定着を図る。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.3	76.8	73.1
	読むこと	60.4	64.5	59.9
	書くこと	55.7	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	52.6	54.5	59.0
	外国語理解の能力	68.3	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	58.3	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○「聞くこと」全体の正答率は市の平均を下回ったが、全10項目中6項目で市の平均を上回った。特に、WH疑問文の応答を得意としている。 ●市の正答率76.8%に対して0.5ポイント下回っている。「英文の要点を聞き取り、内容と合っているものを選ぶ」問題や「対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える」問題では正答率が50%台であった。	・授業内での音読活動を効果的に取り入れる。 ・ALTとの対話活動を積極的に取り入れ、質問されたことに対して適切な応答ができるようにする。 ・まとまった英文を聞かせ、内容の要点を聞き取るような英問英答を取り入れていく。
読むこと	○「語形・語法を理解する」問題や「ブログの内容を理解し、日常場面におけるコミュニケーションのあり方を考える」問題では、それぞれ5.4ポイント、2.2ポイント、市の平均を上回った。 ●市の正答率64.5%に対して4.1ポイント下回っている。13項目中10項目が下回る結果となった。 ●指示語が指す内容を把握することを苦手としている。	・対話文や物語など、まとまった文を読む機会を増やすことで、文の大まかな内容を把握する活動を多く取り入れる。 ・長文を読む際に、指示代名詞が具体的に何を指しているか確認しながら読むことを今後も継続して指導していく。 ・時間内に正確に読む練習を取り入れる。
書くこと	○市の正答率55.3%に対して0.4ポイント上回っている。特に、「単語を正しく書く」問題(天候)では、正答率が93.8%と、市の平均を29.5ポイントと大きく上回った。 ○「一番好きな季節について、まとまった5文以上の英文を書く」問題では、理由や説明を正しく書く生徒の割合が、5.4ポイント市の平均を上回った。 ●SVO+to不定詞やmoreを使った比較級の語順の理解が不十分である。	・英作文の基本となる語彙や語形・語法の知識理解を高めるために、授業の中で既習事項の単語や文法を繰り返し復習できる場面を多く取り入れる。 ・まとまった5文以上の英作文の練習を取り入れる。

宇都宮市立上河内中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・確かな学力を身に付け、主体的に考え表現できる生徒を育成する。	・確かな学力を身に付けるために、家庭学習ノートを活用し、家庭学習の習慣化を図る。	・「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか」という質問に対し、1学年は「①学校の授業がある月曜日から金曜日について」は、市は「1時間くらい」が26.4%で最も多いのに対し、「1時間30分くらい」が23.8%と最も高かった。「②土曜日や日曜日など、学校が休みの日について」は、市と同様に「1時間くらい」が最も高かった。2学年は、①は、「1時間くらい」が市と同様一番高いが、②については、「1時間くらい」「1時間30分くらい」を合わせた数値が55%と、市の平均より18.5ポイント高かった。3学年は、①については、「3時間以上」が最も高く、39.0%と市の平均と変わりはないが、②については、「3時間以上」が市の平均より3.5ポイント上回った。
	・話し合い活動を意識的に授業の中に取り入れる。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」という質問に対し、1学年は肯定的割合が77.5%と市の平均を2.9ポイント下回った。2学年は、84.5%と市の平均を2.4ポイント上回った。3学年は、82.3%と市の平均を0.4ポイント下回った。
	・主体的に考える力を高めるための「書く時間」を重視した授業展開を工夫する。	・「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている。」という質問に対し、1学年は肯定的割合が75.0%と市の平均を5.8ポイント下回った。2学年は、76.1%と市の平均を1.3ポイント下回った。3学年は、89.0%と市の平均を10.7ポイント上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか」という質問に対し、学年が上がるにつれ、少しずつ家庭学習に掛ける時間が長くなってきている。昨年度から始めた、家庭学習ノートを活用した家庭学習の充実を図る取組の結果が表れていると考えられる。

・3学年について、1年前の2学年の時の結果と比べてみると、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」では、82.9%で4.9ポイント上回り、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」では、76.8%で3.6ポイント上回り、「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。」では、86.6%で12.2ポイント上回った。これら全ての項目で上回っていることから、話し合い活動を授業に取り入れるという重点的取組の効果が上がっていると考えられる。今後も意識的に授業の中に話し合い活動を取り入れ、学び合う集団づくりをしていきたい。

・地域学校園学力向上部会授業力向上プロジェクトで進めている9年間を見通した指導の実践を通して、基礎・基本の確実な定着を引き続き図っていく。各教科において漢字、計算、英単語、教科の専門語彙など基礎基本的内容の小テスト等も引き続き行う。家庭学習の取組については、個人懇談、保護者会や学校だより等を通じて家庭での協力を得ることでより確かな学力を身に付けさせたい。